## ２．交通流動変化による波及効果

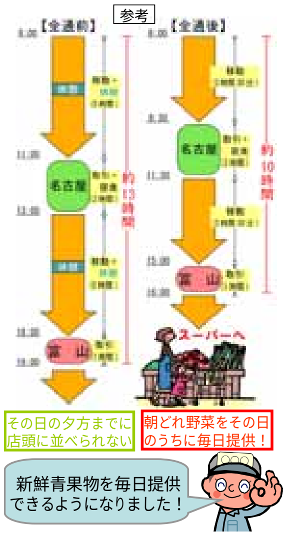
### 2-1．企業活動における物流の効率化

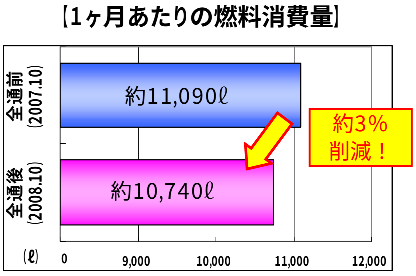
#### 1）東海北陸自動車道への配送ルート転換により輸送の効率化が実現

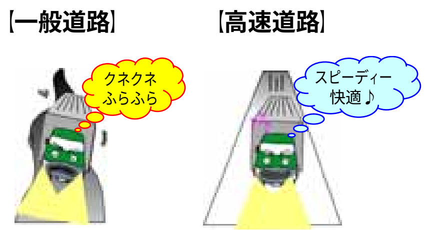
・富山県に拠点をおく物流会社Ａ社では、名古屋・富山間の輸送ルートを東海北陸道・国道４１号利用から東海北陸道の全線利用に変更することで、輸送時間の短縮し、東海方面の「朝どれ野菜」を富山県内においてその日のうちに毎日提供が可能になりました。

・富山・名古屋間の輸送における１ヶ月あたりの燃料消費量を対前年比約３％削減(1ヶ月間に削減した燃料は、トラック利用距離換算にすると富山・名古屋間２往復分に相当)、地球環境に優しい輸送を実現しました。

**全通に伴い名古屋・富山間の4時間圏内輸送が実現、よりスピーディな輸送が可能に**



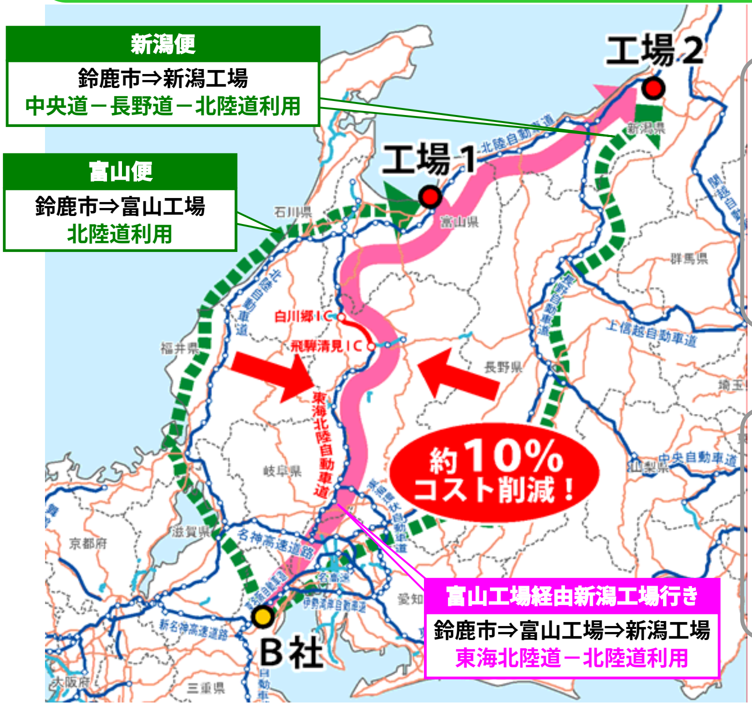



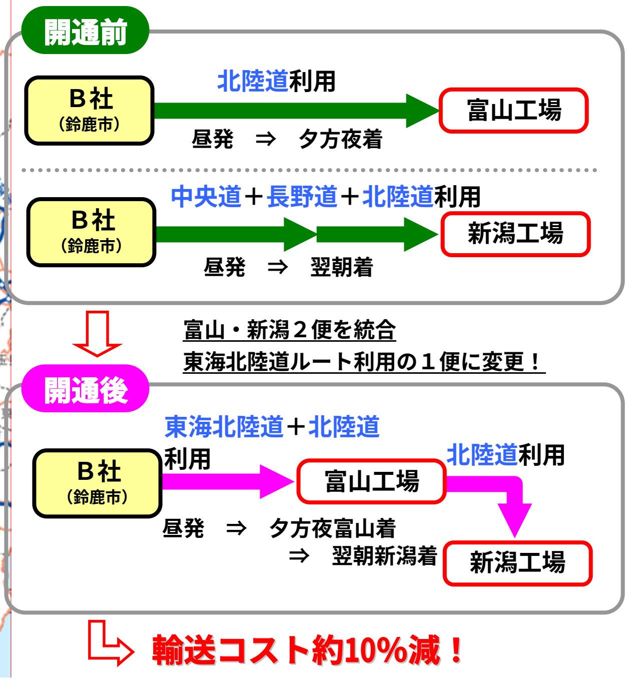

出典：企業ヒアリング

#### 2）輸送ルートを東海北陸道ルートに統合することで輸送コスト縮減を実現

・鈴鹿市の業務機器メーカーＢ社では、北陸道便と長野道便の２便を東海北陸道便に統合し、これにより約１０％の輸送コスト削減が実現しました。

**富山便と新潟便を東海北陸ルートに統合、コスト10%減**




出典：企業ヒアリング